

学生団体「選挙へGO!!」



学生団体「選挙へGO!!」発足の経緯

- 代表の竹内博之が今年春の統一地方選で初めて投票行動をしたことがキッカケ！
- 自らが選挙で投票することにより、普段は関心が薄かった投票率の低さについて疑問と危機感を覚える。「特に若者の投票率」
- 現在、学生団体「選挙へGO!!」のアドバイザーである佐藤淳先生に相談。
- 青森県知事選挙学内啓発を機に様々な活動を展開

これまでの活動

①青森県知事選挙学内啓発運動

②青森県議会議員と青森市内の大学生による

「居酒屋CST」

③弘前市長と弘前市内の学生による

「居酒屋MST企画」(11/11開催)

学生団体「選挙へGO!!」 について

1. 設立年月日

- ・2011年6月3日

2. ミッション

- ・若者の投票率向上による地域活性化
 - i .投票率が上がる
 - ii .政治が変わる
 - iii .日本が変わる

①青森県知事選挙学内啓発運動

1.目的

◎学生の投票率向上のため

- ・青森県知事選の投票日の告知(6/5)
- ・選挙制度のお知らせ
- ・期日前投票制度
- ・不在者投票制度

2.日時

- ・平成23年6月2日(木)～3日(金) 昼休み

3.場所

- ・青森中央学院大学内

4. 学生の反応

- 学生の中には「投票日を知らなかった」や「投票場所がわからない」などといった意見もいくつかあった。
- どうせ自分が投票に行ったところで何も変わらない、日曜日に行くのは面倒などと厳しい意見もあり、メディアなどの報道により若者の政治不信が強いと感じた。
- 「選挙に必ず行きます」や「まだ投票権は無いが二十歳になったら必ず投票に行く」という声も挙がった。

5.感想

- 若者の何も変わらないから何もしないという意識は選挙だけではなく、いろんな場面で出てくるのではないかと不安になった。すぐに諦めてしまうのではなく、何事にも希望をもって**行動する意識が大切**であると感じた。
- なぜ選挙が大事なのか、投票することが大事なのかという訴えかけが出来れば良かった。
- 次回の選挙時には、県内の大学を回り選挙啓発をしようと思った。

②居酒屋CST

(Councilor and Student Talk)

- 居酒屋CSTとは？

Councilor:政治家

Student:学生

Talk:トーク

1.目的

- 政治家が雲の上の存在という意識を変え、若者が身近に感じて、政治に関して興味関心をもってもらおう。
- 議員が普段どのような活動をしているか理解する。
- 話し合いの中から、県政に対する見識を深めていく。
- 若い世代の考えをぶつけて、県議会議員に理解してもらおう。
- 以上を踏まえ、若者の選挙投票率向上につなげる。

2.日時

- ・平成23年7月21日(木)19:00～21:30

3.場所

- ・たか久 総本店

4.内容

- ・居酒屋を利用して青森県議会議員(高橋修一議員、菊池憲太郎議員、花田栄介議員)3名と青森市内の大学(青森中央学院大、青森大、公立大、保健大)と弘前学院大の合計5大学の学生22名が放談会を行った。

5.参加学生の感想①

- 政治家も意外と普通の人であり身近に感じることができた。
- 政治家は固いイメージと全然違って面白かった
- 参加していた議員の街頭演説などを聞いてみたい
- 自分たち若者も責任を果たす世代になるという自覚が芽生えた。
- 政治を勉強してみようと思った



5.参加学生の感想②

- 政治家のその場でしか聞けないような生の話を聞いた
- 選挙に行って自分の一票を大切にしようと思った
- 他の大学生との交流も深められ学生生活の刺激になった。
- 次回の企画にも参加したい

③ 居酒屋MST (Mayor and Student Talk)

・ 居酒屋MSTとは？

Mayor: 市長

Student: 学生

Talk: 学生

1.目的

- 市長の普段の仕事を理解する
- 若い世代の考えを知ってもらう
- 学生の市政の見識を深める
- 若者の声や気持ちで行政運営が変わることを理解する
- 学生が弘前のために出来ることを考える

以上が投票行動のキッカケになること

首長と居酒屋トークを 行いたいと思った理由

首長と議会は地方政治の 両輪であるから

二元代表制を理解する上でも
前回の居酒屋トークで議会議員と開催した
経緯から今回は首長と行うことになった。

葛西憲之弘前市長と 居酒屋トークを行いたいと考えた理由

- ・代表と副代表が弘前市民であるから
- ・葛西市長が市民対話を重要視している
首長であるから
- ・第6回マニフェスト大賞優秀賞受賞
マニフェスト型行政運営に熱心であるから

今後の展望

- 首長や議会議員と今後も継続して居酒屋トークなどを行う
- 県内の大学と連携して県内全域で選挙啓発の動きを広げる
- 街頭演説形式での選挙啓発